

◆半紙一行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

書譜 孫過庭



- 1、字句不逮
- 2、形式半紙タテ使用。中央に「不逮」と臨書し、左余白に落款「○○臨」と調和を工夫し書き入れる。
- 3、概観「書譜」全体を通して眺めて見ると、大きく変化しているのがわかる。用いた料紙は折目があり、始めは慎重に折目の間に書かれており、少し硬さも見られる。書き進むにしたがって、スピード感溢れる書きぶりとなり、連綿も散見され、強弱の変化も目につくようになる。後半は文字も大きくなり、やや荒い書きぶりとなっている。このように書き進むにしたがって、運筆の調子が躍動的になり気分が昂揚しているところから見ると、一気に書き上げたのではと推察される。しかし、文字数が三七〇余あることを考えると長時間を要し、一気にいっても小休止しながら書いたのであろうか。
- 4、各字のポイント
 - 不 一画目の点は少し動く。意連により二画目へ。右下に連筆し、左横に払う。三画目の点は打ち込んだ後筆を持ち上げるようにしてハネ、意連にて四画目。この点を打ち込んでから筆を持ち上げ反らすように払い連に連綿。
 - 速 一画目連綿を受け強く筆を突き、筆を引き上げ、△で面を変え、すくい上げ点を打ち次画に意連。縦画は少し反らしハネ。以後表と裏の面を次々と変え、収筆は筆を受け○で一旦止め、右に少し下げながら□で上にハネ上げる。

半紙課題(予告) (七月二十二日締切)

平岡華雪先生書

百善孝を先とす

百善孝
為先

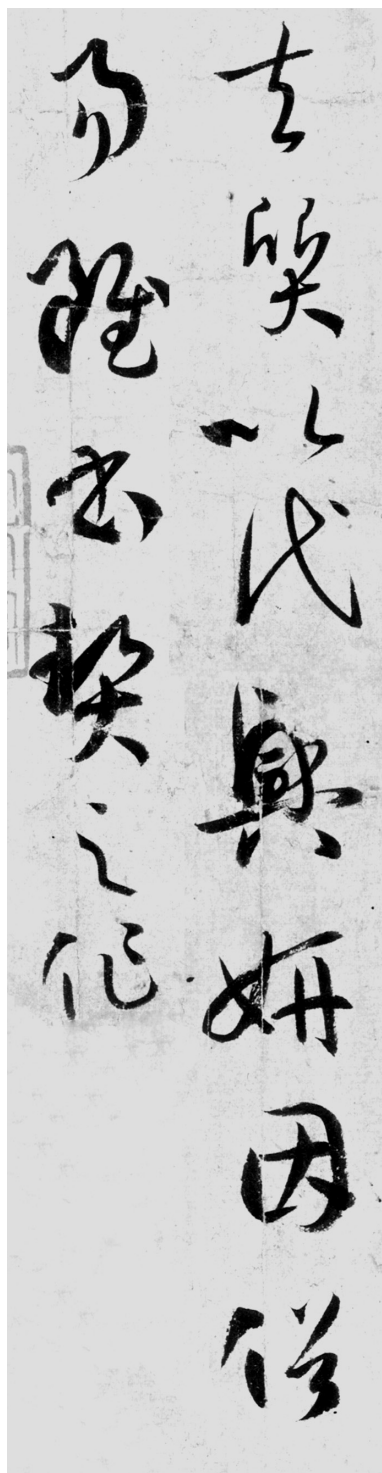
訳：百善のうち孝が第一である。

平岡華雪先生書

雨雲のいつもどこかに夏野ゆく(星野立子)

雨雲のいつも
どこかに夏野ゆく

夏野ゆく



夫質以代興。妍因俗易。雖書契之作。

夫れ質は代を以て興り、妍は俗に因りて易かる。書契の作れるや、

しかし質朴とか艶美とか言っても、その評価は時代と共に推移するものであり、質朴さは時の移り変わりに随って貴ばれ、艶美さは世俗と共に見捨てられる。もともと文字が作られたのは、(言葉を記録するためであったが)、

※随意部参考(半紙・条幅)としてもご利用下さい。抜粋可。

随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

一字書 (六月二十二日締切)

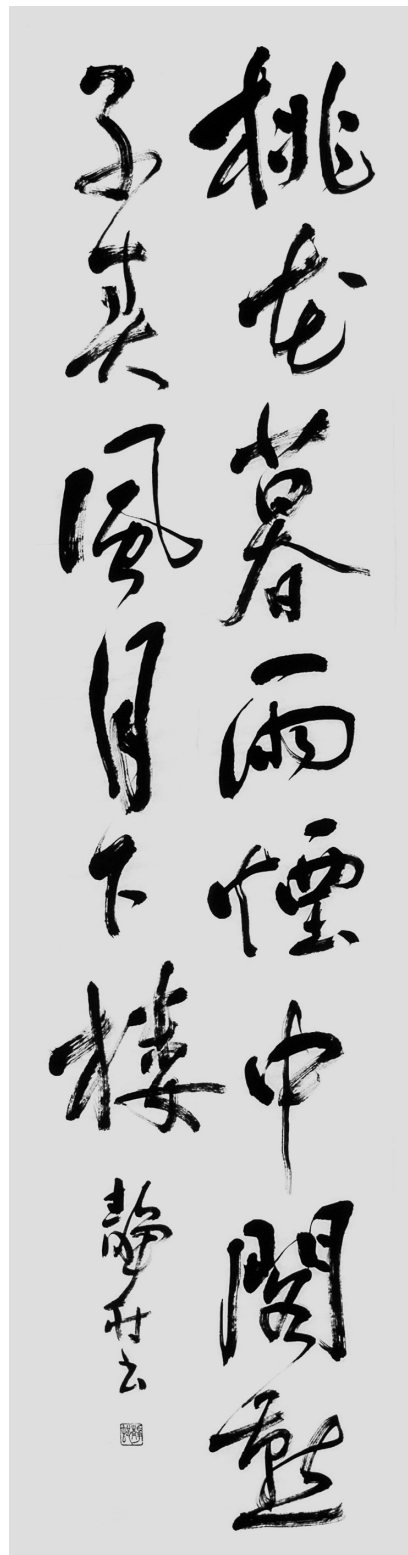
課題

壺

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に
一字と記入 段級は無記入

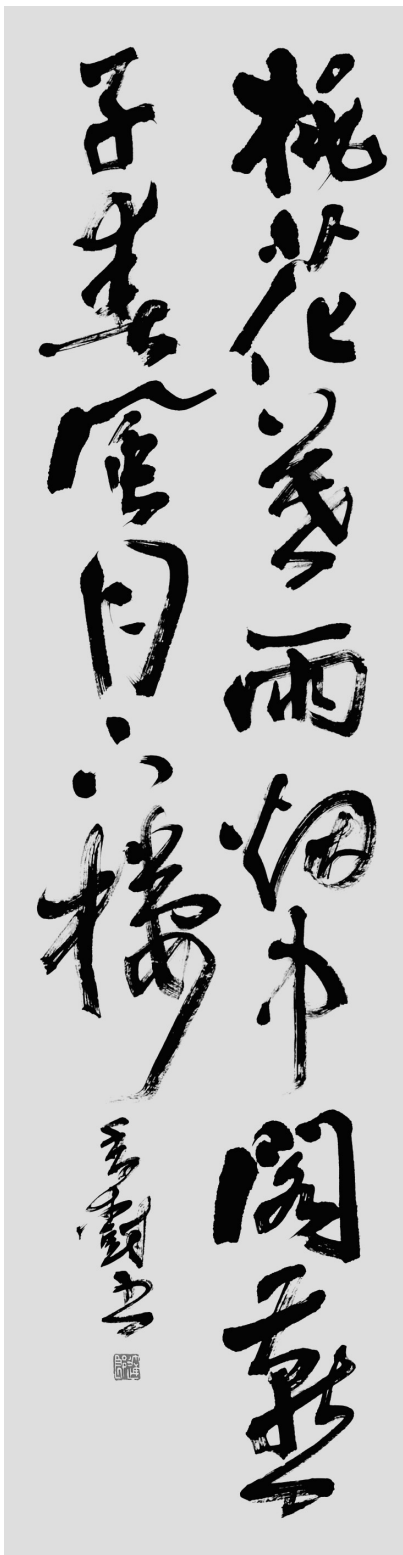
A
鈴木静村先生書

桃花暮雨煙中閣 燕子春風月下樓 (毛氏)



B
高橋香樹会长書

同一同類書体だけでなく、字典から「集字」した書体も採り入れ多様な書体に触れ、幅広く撰取・消化することが条幅創作では必須とされている。桃 四点打ち方を工夫。雨 墨継ぎ、何紹基借用。煙 旁の点なくて可。閣 墨継ぎ、次字連綿。燕 草書にメリハリ。子 末画下部で結び、次字連綿。春 草書字典参照を。風 墨継ぎ、次字連綿。月 次字連綿。転折留意。



左右の行の出入りを心懸けて書きました。一行目は「花・雨・畑・閣」で左に張り出し、二行目は「風・月・樓」で右に出すことにより、一行目が出たところでは二行目は引き、一行目で引いたところでは二行目を出すといたったことで、左右がぶつからずに行の流れを表出することが出来ます。墨継ぎは「閣」と「風」です。

訳：桃の花に降る夕暮山の雨は煙中に見える閣で、燕が春風に飛んでいるところは、もはや月の光がさしている。

予告 (七月二十二日締切)

昔欲居南村

非爲卜其宅

聞多素心人

樂與數晨夕 (陶淵明)

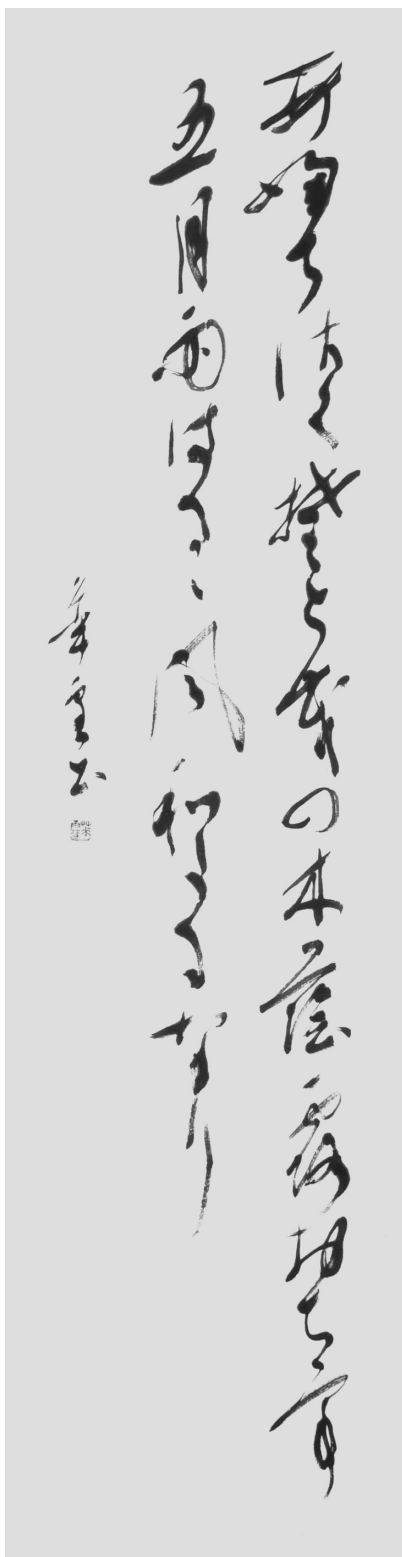
- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

あふちさくそともの木かけ露^{（お）}をちて五月雨はる、風わたるなり
あ婦^{（お）}ち佐久楚^{（さ）}と茂^{（も）}の木蔭露^{（お）}おち亭^{（てい）}五月雨はる、風和多^{（た）}るなり

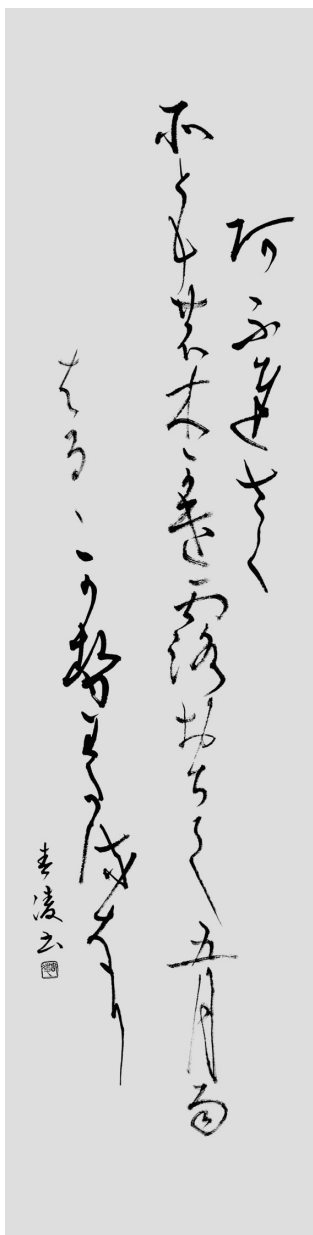
（新古今和歌集 前大納言忠良）



B

武井春凌先生書

あふ遅^{（お）}さ久所^{（く）}とも農木^{（の）}可遺露^{（か）}おち氏^{（の）}五月雨者^{（は）}る、可勢^{（か）}王多流^{（わ）}奈^{（な）}り



前大納言忠良（一二六四
〜一二三五）
平安後期から鎌倉時代の
公卿、歌人。

法性寺殿忠通の孫。六条
摂政基実の次男。母は左
京大夫藤原顕輔の娘。摂
政大臣基通の弟。兼実・
慈円らの甥で、良経の従
兄。また清輔の甥にあた
る。子の衣笠内大臣家良、
大納言基良も勅撰歌人。
作歌は「千載和歌集」以
下の勅撰集に多数はいっ
ている。

学び方

三行書にしてみました。
一行目は「阿ふ遅さ久」と五文字に短くして、二行目は一行目に寄せて「所とも〜五月雨」まで書き、三行目「可勢」の
ところで墨つぎをします。全体に二文字から三文字を連綿にして、流れと墨量や潤濁を考慮しながら書いてみて下さい。

予告（七月二十二日締切）

夕立のは山すぎにし木づたひにまたしぐれゆくむら蟬のこゑ（下河辺長流）

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条かを○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条かを○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

条 幅 部 随 意 参 考

水 貝 潮 華 先 生 書

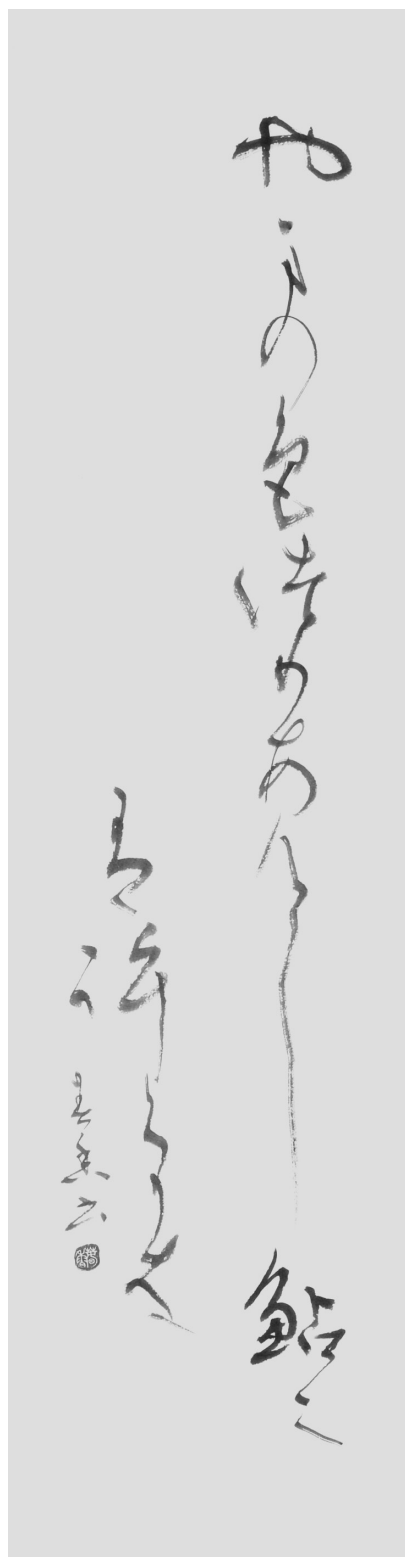
仰観山俯聴泉（白樂天）
仰いで山を観俯して泉を聴く。



訳：上向いては山を見、下向いては泉を聞いて夏を忘れる。

石 原 春 香 先 生 書

山の色釣り上げし鮎に動くかな（原石鼎）
や万の色徒利あ介し鮎二有許久可奈

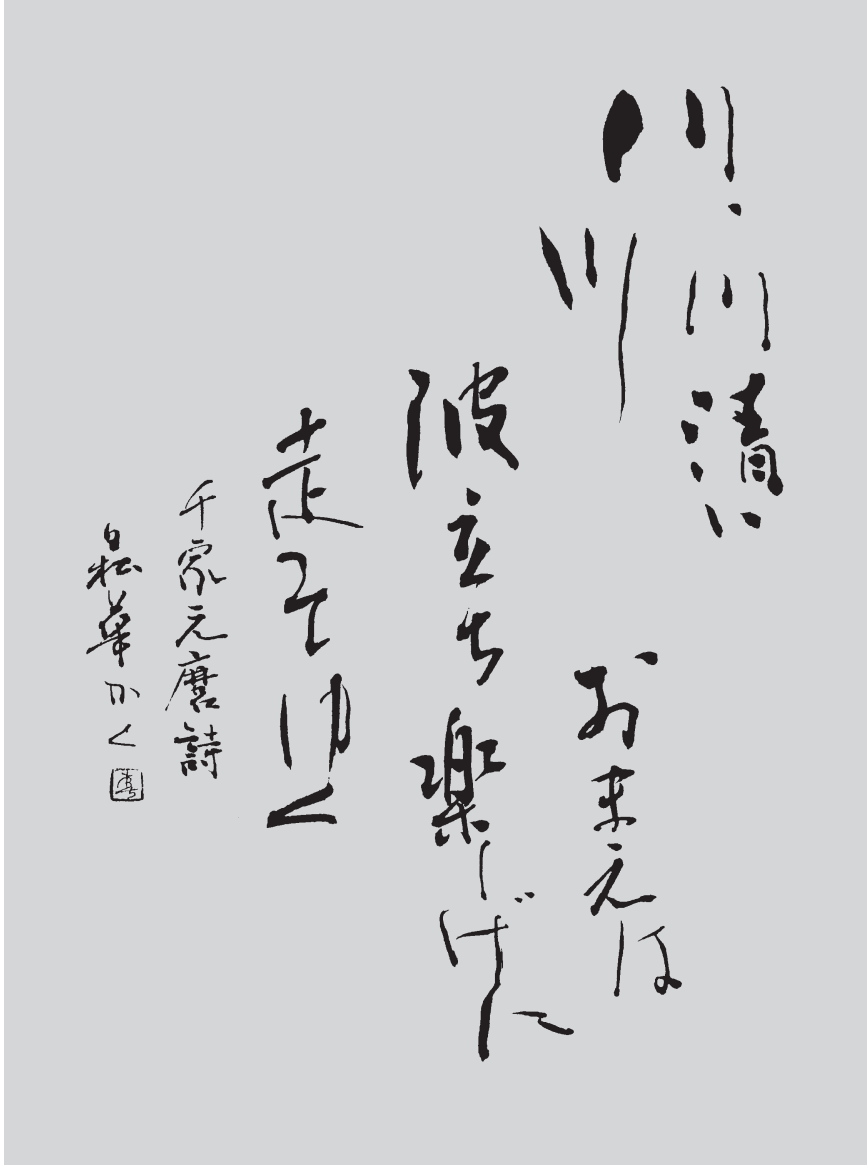


- ◆注 意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

小暮 菘華 先生 書

川、川
清い川
おまえは波立ち
楽しげに走ってゆく
(千家元麿)

今回は「川」という昔の懐かしい合唱曲の歌詞の一部です。筆をとるとメロディが甦り、自然に流れ・リズムが筆にのってくる気がします。このリズムを大切に視覚的要素を取り入れた構成を考えていきます。書き出しに「川」の三文字を集め、各々、表情を変え波立つ川の流れをイメージして主題を強調します。「波・楽・走」は大きく動きを感じるように書き、川がリズムよく流れ、楽しげに走るさまを表現、ひらがなは平板にならないよう、大小、太細、ゆらぎ、傾きに注意し工夫します。



「漢字かな交じりの書」は、用紙に対し、文字数も限られ、漢字とかなの割合も創作上の大切な要素だと思います。今回の詩は文字数三十一、漢字とかなは一对二の割合でした。

千家元麿 詩人
一八八六年〜一九四八年 出雲大社宮司千家尊福の庶子として東京麹町の別邸に生まれる。短歌を窪田空穂に、俳句を佐藤紅緑に学び、武者小路実篤を生涯の師とする。詩集「自分は見た」「虹」「夏草」等多数。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

雨過ぎて土香を生ず(陸游)
訳：六月のころ微雨の過ぎた後のことである。

〈主な留意点〉
主調文字は「過」特に、しんじょう之「統」に留意。他は画数も少ない上に安定的の形、「土、生」同じ用筆の横画をどっしりと。「香」第一画の用筆が要注意。

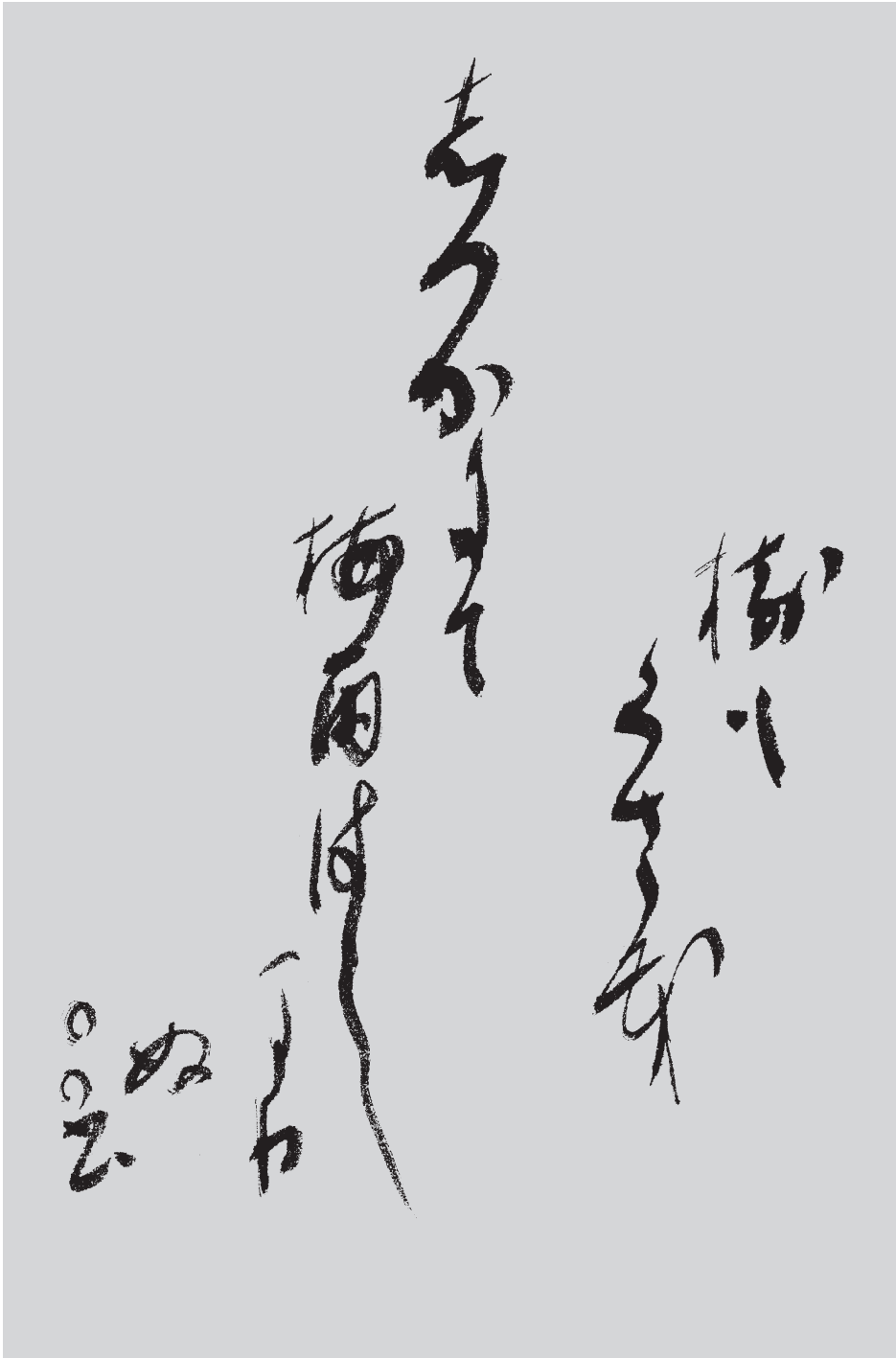


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

樹も草もしづかにて梅雨はじまりぬ (草城)
樹も久^くさ^さ茂^も志^しつか^にて梅雨はし^まりぬ



〈思い切った試みを〉
上五、サラリとした二行書き、「茂」細めに大きく独特。中七、強調気味に「梅雨」まで口誦む、下五の「は」で墨を継ぎ、「し」で余白を分割、「万利ぬ・落款」は散らし添え収める手法…。これは私も試みる一つ、各自思い切って試みを。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

楷、行、草、三 体 参 考

内藤香瑤先生書

向國惟看日（王維）
國くにに向かつて惟ただ日ひを看み、

向國惟看日
向國惟看日
向國惟看日

香瑤書



訳：その国に向かってただ太陽を目当てとし

1. 随意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は430円。

随 意 部 参 考

高橋紫芳先生書

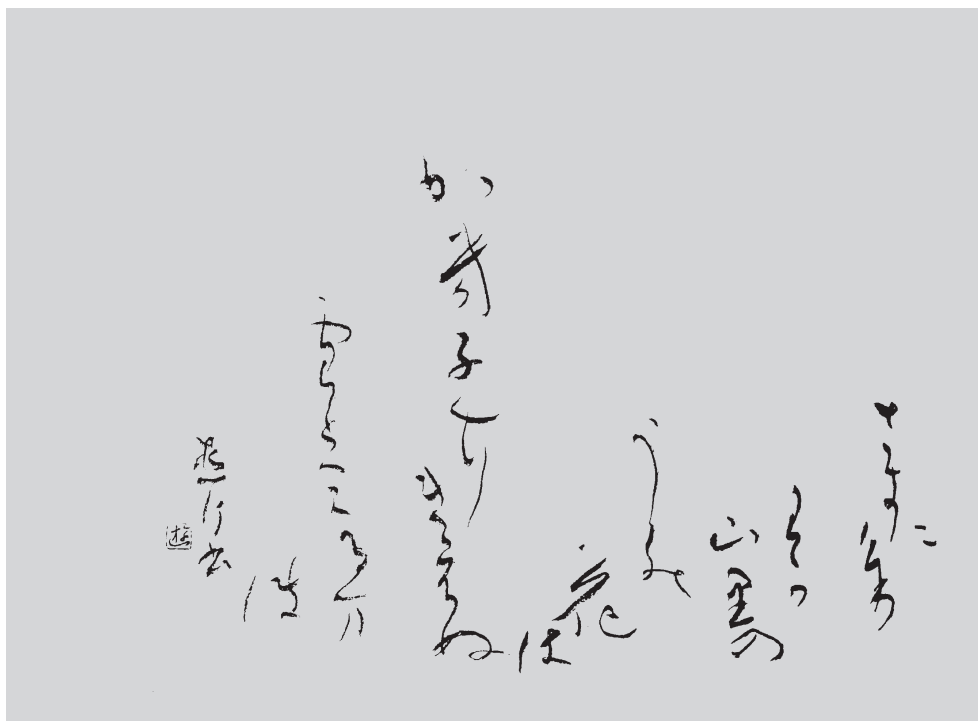
忘機無物我（超證）
機を忘れ物我無し。



訳：名利などの心をすててしまえば自他の区別を忘れる。

立川遊汀先生書

咲きにけりわが山里（やまざと）の卵（う）の花はかきねに消えぬ雪とみるまで
さ支に介利王可山里（やまざと）のう能花はか幾子耳（きこみみ）きえぬ雪と三万傳（さんまんでん）
（藤原元真）



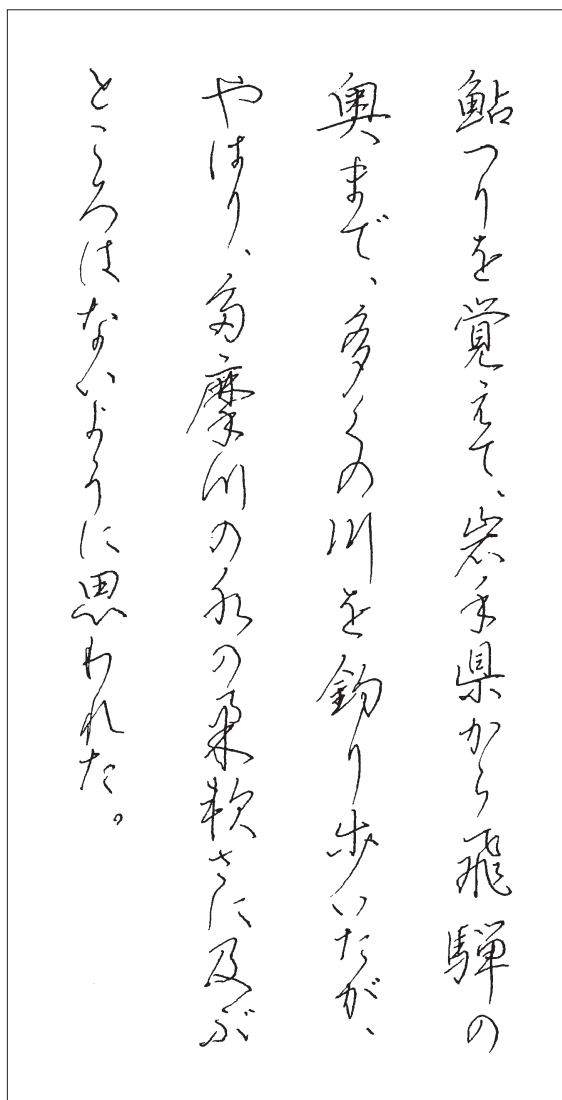
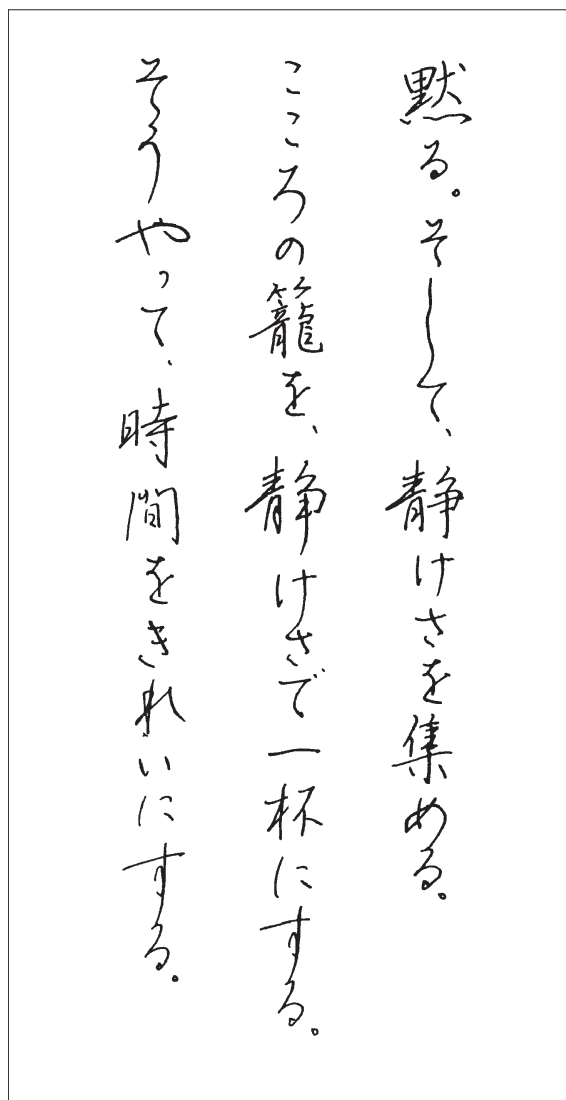
1. 随意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は430円

湯澤春翠先生書

路川千曄先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

鮎つりを覚えて、岩手県から飛騨の奥まで、多くの川を釣り歩いたが、やはり、多摩川の水の柔軟さに及ぶところはないように思われた。

「秩父愁色」 島田利正

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題2 (初段階以下)

黙る。そして、静けさを集める。

こころの籠を、静けさで一杯にする。

そうやって、時間をきれいにする。

「一日の終わりの詩集」 長田弘

より「空の下」の一節